

環境デザイン研究室

活動報告

3月5日に日本建築学会 建築会館の展覧会とシンポジウムにて
皇居外苑の模型の展示と石川教授による講演が行われました。

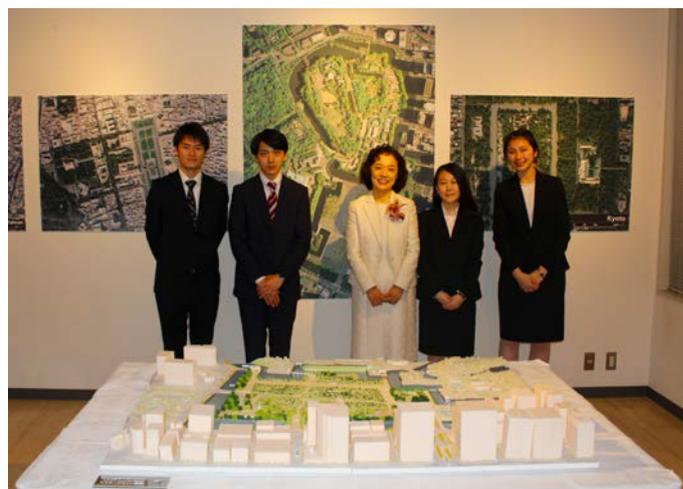
3月5日に、日本建築学会 建築会館にて、『変容する「都」<4+2> ～古代ペルシャから現代東京まで～』の展覧会とシンポジウムが行われ、本研究室が作成した皇居外苑の模型が展示されました。またシンポジウムでは石川教授が講演を行いました。

(日本建築学会 URL：<http://www.aij.or.jp/jpn/symposium/2018/iran20180305.pdf>)

この展覧会及びシンポジウムは、イランと日本の代表的な6つの「都(シラーズ、タブリーズ、エスファハーン、テヘラン、京都、東京)」を対象に、「古都」「新都」という軸で両国における都市の形成や変遷の対比をしたうえで、将来の都市像について考えることを主旨として開催されました。

両国の行政・文化遺産管理者・都市計画専門家による講演や、模型・パネルの展示を通じ、今後の歴史的遺産の保全・活用の在り方について両国が共に考え、交流を深めました。

展覧会は2018年3月20日まで同会館で行われています。



展覧会にて展示された皇居外苑の模型と、
石川教授・環境デザイン研究室の学生

○展覧会：皇居外苑の模型の展示

今回展示された皇居外苑の模型は、現在研究室に所属する4年生が、3年時の人間総合理工学演習(前期)内で提案した成果物を基盤に、本研究室が再制作したものです。皇居外苑の中央を横断する「内堀通りの半地下化」や「生物多様性の向上」など、「新たな皇居外苑のかたち」にむけた学生らしい提案やデザインが盛り込まれています。

○シンポジウム：石川教授の講演

石川教授の講演では、物流やコミュニティ形成の機能を果たした竹河岸をはじめとする江戸時代における河岸地の重要性と変遷、さらに皇居外苑において外苑空間を道路が分断されていることによって生じている文化的景観の阻害について講演を行いました。また、皇居外苑の「内堀通りの半地下化」のデザインに関しては会場の多くの方が関心を持ってくださいました。

また、イランの方々の講演ではイランの都市においてシンボルとなっている歴史的建造物やバザールという歴史的な商業施設などシンボルや都市形成に関して講演が行われました。



シンポジウムにて、
日本の首都「東京」の
歴史的変遷について
講演を行う石川教授



イランの古都「エスファハーン」
について講演している様子



レセプション会場にて両国の
交流を深める参加者の皆さん